

(13) 知っておきたい学習のポイント

言葉と同時に学ばせよう

「ゲゼルの成熟優位説はあらゆる学習に適用できる」と世界中の教育者たちがそう考えていましたが、マグロウの実験で、それが適用できないばかりか、全く正反対の結果になる場合もあることが、今や事実として現われたのです。では、この相反する事実をどう説明したら納得ができるでしょうか。

それは次のように考えたら納得できると思います。人間は、横になった状態が安定した状態であって、立つことは大層不安定な状態です。だから立っているためには、多くの筋肉を絶えず微妙に働かせてうまく重心を取るようにならなければなりません。私たちは子どもの時からそのための訓練をして、それに十分に習熟してしまっていますから、そのための苦勞を全く感じませんが、ほんとは“立っていること”は大変な仕事なのです。

だから、まだうまく歩けない子どもにとっては、歩くこともローラースケートで滑ることも、倒れないために筋肉をうまく操る“同じ学習”だということが出来ます。したがって歩くことが、そのままスケートで滑る練習に直接役立ち、またスケートで滑ることが、歩くことの練習になるのです。

ところが、十分に歩けるようになってしまってから初めてスケートを練習する子どもにとっては、滑ることが歩くこととは全く別の“新しい学習”になってしまいます。つまり、歩くことが滑ることに直接役立つ、と

いうことがありません。

また、まだよく歩けない子どもは、倒れることに苦痛を感じませんから、滑る練習で倒れてもそれを少しも苦痛に感じません。しかし、十分に歩けるようになった子どもが滑る練習で倒れることは苦痛になります。

このように考えてきますと「まだよく歩けないうちから滑る練習をすると成功し、十分に歩けるようになってから滑る練習を始めると成功しにくい」という理由がよく納得できると思います。

すでに(10)のところで述べましたように、漢字は「目で見る言葉」です。漢字と言葉との違いはただそれが「目から入ってくるか、耳から入ってくるか」だけの違いであって、中身は同じものです。しかも、漢字でも言葉でも最終的に受け取る場所、判断する場所は、全く“同じ”脳です。

これもすでに述べたところですが「目で漢字を受け取る方が耳で言葉を受け取るよりも本質的にやさしい」ことなのです。だから幼児のうちに言葉と漢字とを同時に学習させるなら、それは滑ることと歩くことを同時に学習するのと同じ理由で、両者の学習が互いに助け合っとうまくいくのです。

言葉を学び終えてから漢字を学ばせる今の教育は、十分に歩けるようになってから滑ることを学ばせるようなもので、これでは漢字学習が大変なものになるのが当然です。漢字がむずかしいのではなく、むずかしくなるように学ばせているのです。